

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300079	事業の開始年月日	平成20年11月1日	
		指定年月日	平成20年11月1日	
法人名	株式会社 ジャパンケアサービス			
事業所名	ジャパンケア川崎新作 小規模多機能			
所在地	( 213-0014 ) 神奈川県川崎市高津区新作4-16-1			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25 名	
		通い定員	15 名	
		宿泊定員	5 名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果 市町村受理日	平成25年1月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・グループホーム等から学ぶ小規模多機能型居宅介護として、家庭的な雰囲気を大切にし、利用者それぞれの家庭環境や生活環境を考慮し、のんびりと、ゆったり過ごせる環境作りに心掛けています。</p> <p>・通いサービス等の送迎は、他の方との兼ね合いにもよりますが、7:30～19:45まで事業所での送迎が可能で、場合によっては相談にも答えられるよう対応させていただいています。</p> <p>・突然の体調不良等により、通いサービスが難しい場合は、訪問サービスに切り替えるなどの柔軟な対応ができるように心掛けています。</p> <p>・少ない職員数の中、業務の時間を工夫しながら、ご利用者個々のできることを考え、サービスの提供を行っています。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年10月29日	評価機関 評価決定日	平成25年1月23日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b></p> <p>◇重度化してもできる限り自宅や事業所で過ごせるような対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化した場合や終末期など困難な状況の方でも医療処置が必要ないなど、条件が合えば受け入れることを方針としている。職員はターミナルケアの研修を受けており、職員として看護師も毎日配置し、介護職員と共にチームでの支援ができる体制をつくっている。</li> </ul> <p>◇利用者の外出の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩や買い物など日常的な外出のほか、今年度より行事委員会を立ち上げて、職員間で役割を決めたことで利用者の外出が充実してきている。担当になった職員が計画的に取り組むことで、桜の花見や市民ミュージアムでお茶を楽しむ利用者全員参加の外出も可能となった。</li> </ul> <p><b>【事業所が工夫している点】</b></p> <p>◇地域との関係を深める保育園児との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会に加入し、町内の行事にも参加しているが、今年度から地域の保育園との交流を始めた。敬老の日に合わせて園児が訪れ、歌や踊りを披露してくれた。園児との交流に利用者は喜び、子どもたちも社会との交わりを深めて有意義であった。</li> </ul> <p>◇利用者同士の関係性に配慮した工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は、テーブルの配置を通い利用者の関係性に合わせて毎日変更し、不要なトラブルが発生しないよう工夫している。</li> </ul>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ジャパンケア川崎新作 小規模多機能
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

ジャパンケア川崎新作 小規模多機能

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成22年に作成した事業所理念を朝のミーティング時に参加職員全員で唱和し、理念に沿ったサービス提供ができるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所理念は事務室に掲示し、毎朝のミーティング時に参加職員全員で唱和している。</li> <li>・職員には、日常のケアの中でなぜそのサービスを提供するのかを理念に基づいて考えるよう、管理者は働きかけている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の加入し、町内会で行われる行事への参加や地域の保育園との交流事業の実施し定期的な交流ができるようにしていけるよう努力している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会に加入している。町内の盆踊りに利用者と参加している。</li> <li>・今年度から地域の保育園との交流を始めた。敬老の日に合わせて園児が訪れ、歌や踊りを披露してくれた。利用者は喜び、子どもたちも社会との交わりを深めていた。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員自身の研修は行われて質の向上を図れているが、地域に向けて実際に貢献ができているとは言えないと思われます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、民生委員・地域包括支援センター・ご家族が参加し、定期的実施を行っているが、ご家族の参加が少ない状況で、なかなかご意見が吸い上げられていない状況である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議は適切なメンバーで定期的開催されている。会議で出された意見をもとにサービスの向上につなげている。</li> <li>・例えば、水分を摂りたがらないことを心配する意見がでたときは、対応方法をリーフレットにして会議メンバーと全家族に配布している。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小規模多機能型居宅介護事業所連絡会へ毎回参加し、意見交換などを行っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎市の小規模多機能型居宅介護事業所連絡会へ毎回参加し、意見交換などを行っている。</li> <li>・利用者の担当ケースワーカーとも連絡、連携を図っている。</li> </ul>	

ジャパンケア川崎新作 小規模多機能

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画に則り、事業所内研修を実施し、また、身体拘束禁止の理念と方針を常に見れるよう掲示し、日ごろから職員の意識付けを行っている。	・研修計画に基づいて事業所内研修を行い、身体拘束をしないケアについて理解を深めている。 ・言葉による拘束に関しても、意識づけを行っている。 ・夜間以外、玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画に則り、事業所内研修を実施し、職員個々が入浴時等利用者のお体の様子を常に把握するよう意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等の研修機会には参加を心がけ、また、後見人制度等をご利用しているご利用者もいることから、今後のことなどについて常にコミュニケーションを図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、各項目について説明を行い、理解や納得がされているかを確認しつつ説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項の説明をする際に苦情窓口の説明を行い、事業所内部での閲覧ができるよう苦情フローチャートを掲示し、家族とのやり取りについては連絡帳にて日々のやり取りが行えるようしている。また、意見箱の設置なども行っています。	・家族とは、通い時の連絡帳を活用してやりとりをしている。 ・事業所玄関に意見箱を設置している。	

ジャパンケア川崎新作 小規模多機能

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回の事業所会議を開催し、都度意見を取り入れられるようにしており、常に意見を反映させられるよう努力している。	・職員の見解は毎月の事業所会議、ケアカンファレンスで聞き、会議録に記入し次の会議で確認している。法人本部統括が会議に出席し、意見を聞く場合もある。 ・職員の見解が車イス対応送迎用車1台購入につながった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の本格的運営により、職員個々の実績や努力した結果を評価し給料面等へ反映させることにより、職員が向上心を持って働ける環境整備を行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に基づき、毎月定期的な研修を開催し、職員が研修の行使を行なうことにより学習する機会を作り、また、研修終了後の振り返りシートを使用し理解度の確認を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	川崎市の意見交換会への参加や小規模連絡会が実施する勉強会、区外ではあるが小規模事業所連携事業を実施しているグループの勉強会等への参加を行なうなどしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規受付時やモニタリング時などにおいて、要望やニーズの把握などを行い、生活歴や趣味などを重点的に伺いサービス提供の基本としている。		

ジャパンケア川崎新作 小規模多機能

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受付時や初回の訪問時に家族からの要望やニーズを把握し、計画書等へ反映させるとともに、初回利用時に職員を同行させ家族との会話を持つ機会を多くしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毎月ご自宅へ伺いモニタリングを行い、お話を聞きながらサービス提供の提案を行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者個々の行なえることを表にし、その時に行なえることを常に提案し行なうようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡ノートや送迎時の家族とのやり取りを行なう中で情報の共有化を行なっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	現在まで培ってきた生活環境等が送れるよう支援しています。	・利用者のこれまでの馴染みの関係は、契約時のアセスメントのほか、日常の会話の中で聞き出している。 ・行き付けのスーパー、コンビニへの買い物支援、美容院への付き添い支援をしている。	

ジャパンケア川崎新作 小規模多機能

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者個々の個性を把握し、利用者同士が楽しく会話できる環境づくりを行い、ゲームやレクを取り入れ会話やふれあいのきっかけ作りが行なえるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時は介護に関する相談等、いつでも受けられることを伝えるようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	訪問時に生活歴や趣味等を伺い、ご本人及びご家族から今後の暮らし方についての希望を聞くなど、日常の関わりの中から意向を汲み取るようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問時に利用者や家族から生活歴や趣味などを聞き、普段、利用者とは接する中で意向を把握している。</li> <li>・把握が困難な人については、表情や仕草から意向を汲み取っている。</li> <li>・把握した意向は事業所会議や個人別カードに記入され共有している。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全ケアマネージャーや地域包括等から情報を頂くとともに、ご本人やご家族から聞き取りなどを行なっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人やご家族から1日の過ごし方をお聞きしたり、関係機関からの情報を確認し把握をしています。		

ジャパンケア川崎新作 小規模多機能

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の開催、ケアカンファレンスの開催をし、ご本人、ご家族、職員の意見を反映させています。	・介護計画は本人・家族・ケアマネジャーが話し合い、職員の意見も反映させ作成している。 ・計画は短期3か月、長期6か月で設定され、状況の変化時はサービス内容を見直ししている。毎月、ケアマネジャーがモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者状況シート、職員スケジュール表、介護記録をのこし、毎日の定期的な申し送りで変化等の情報を高等や記録で共有し、計画の見直し等へも反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通いサービスの利用日の振り替えや送迎時間の変更、緊急時の訪問等、フレキシブルな対応を行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やその他の公共機関・関係機関を把握し、必要に応じ情報提供をすることにより支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関への伝達や・受診の付き添い・相談を行なうなどの関係をはかり、必要に応じ訪問サービスにおいての職員付き添いなどを行なっています。	・事業所は入所前のかかりつけ医との関係を優先し、協力医への切替は勧めていない。 ・家族が病院に付き添いできないときは職員が付き添いし、受診結果を把握し、かかりつけ医と情報交換をしている。	



ジャパンケア川崎新作 小規模多機能

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が中心となり毎日の健康チェック、日常の服薬管理、健康管理を行い、申し送り時に要注意のご利用者の状況の報告、連絡帳による家族への受診等の依頼をし、定期的な看護師の介入が必要な場合は訪問看護の要請を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対し入院時には必要な情報の提供を行い、退院時にはカンファレンスを行なうなど、医療関係機関との関係を図っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期など医療処置が必要ないなど、条件が合えば受け入れる方針であり、その際には、事前にご家族や主治医、SW、職員等と話し合いを行うようにし、緊急時の対応等を家族に確認をするようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期の受入条件を契約時に家族に伝えており、家族、主治医、ソーシャルワーカー、職員が話し合い、協力して支援するようにしている。</li> <li>・終末期のときは看護師を毎日事業所にいるようにして、介護職員とともにチームで対応できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化した場合や終末期について、事業所としての方針を文書化して明確にすることが期待されます。</li> </ul>
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例研修でも課題として取り上げており、すぐに対応できるよう事故発生時のマニュアルの掲示や職員には消防署で行なう講習会参加も促しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、職員がいつでも対応できるようにしているが、地域との協力体制をどのように作るかは大きな課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署の指導で、火災発生を想定した夜間訓練を初めて実施した。2階マンション居住者と合同の避難訓練は今後の検討としている。</li> <li>・本部支給の水、ビスケット、オムツなどの備蓄品が3日分をメドに蓄えられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時の地域との協力体制が課題として取り上げられていますが、地域との話し合いの進展が期待されます。</li> </ul>

ジャパンケア川崎新作 小規模多機能

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声かけは自尊心を損なわないよう心がけをしており、定例研修において接遇マナーを取り入れられ、管理者が状況を見ながら都度注意を促しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例研修にて、プライバシーや接遇について確認している。言葉遣いなど具体的な事例を挙げて話し合っている。</li> <li>・職員の不適切な対応があった場合は管理者が注意している。時には記録に残し、意識づけをしている。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや・望みが汲み取れるよう会話では疑問形で問いかけをするなどし、表現の難しいご利用者に関しては表情や動作で汲み取れるよう努力をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のそのときのペースを尊重し、入浴やレクリエーション等を実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整える動作の支援を行うとともに、おしゃれや身だしなみの意欲が継続するよう声かけをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事の準備や後片付けを行いながらご利用者の力を生かせる努力を行なっています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立は決まっているが、利用者の好みに配慮して肉料理を魚に変更するなど柔軟に対応している。</li> <li>・毎月の誕生会には職員と利用者が一緒に手作りおやつを作ったり、行事で芋煮会を開き、季節を味わったりしている。</li> </ul>	

ジャパンケア川崎新作 小規模多機能

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録への食事量の記載や水分チェック表での摂取量の把握し、ご利用者に応じて湯呑み等の大きさを変更するなどの努力をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、本人が行っているか、介助でおこなっているかは状況シートに記載するなど、方法を工夫し行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄管理表を活用し、排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行なっています。	・トイレでの排泄を基本とした介助を行っている。排泄管理表にて一人ひとりのパターンを把握して、誘導する時は耳元で小さく声をかけている。 ・自立している方に対してもさりげなく付添い、安全を確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表にて排便の有無を把握し、水分量の調整を行ったり、薬の使用等を家族と相談しながら管理し、トイレ時や入浴時にふくぶマッサージなどを実施も促しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人やご家族からのご希望があれば毎日入浴も可能としており、拒否があった場合にも時間を置いて再誘導したり、服を脱いでもらえるよう声かけにも工夫をしています。	・一週間の平均的な入浴回数は2~3回だが、希望があれば毎日でも可能である。入浴時間も利用者の希望に合わせて朝8時から夕方16時まで対応している。入浴を控える場合はシャワー浴、足湯、清拭を行っている。	

ジャパンケア川崎新作 小規模多機能

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅での生活環境にあわせ、状況に応じて休息の場を提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をお預かりしファイリングして職員全員が把握できるようにし、緊急時に使用できるよう別ファイルを作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者個々の行なえることを把握し、一日のスケジュールを作成し、その日にあった活動を提案しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて散歩や買い物、ドライブ等を実施し、また、外出レクも取り入れています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩や買い物のほかに、レクリエーションを事業所の外で行うこともあり、良い気分転換になっている。</li> <li>今年度より行事委員会を立ち上げて、利用者全員参加の外出など計画的に取り組んでいる。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の金銭管理については本人の要望やご家族と相談し、必要時に持参してもらうようにしています。訪問サービスでの買い物はサービス実施記録への記載を行なっています。		

ジャパンケア川崎新作 小規模多機能

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由に行なえるようフロア内に設置しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁面にレクで書いた習字や塗り絵などを掲示し廊下を歩行する際の話題としたり、常に一定の明かりを確保し、玄関に四季のわかる飾り付けを行なうなどの工夫を行なっています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共用空間は温度、湿度、採光など季節や利用者の状況に合わせて調整している。</li> <li>・利用者の作品を飾ったり、季節を感じる演出をしている。</li> <li>・テーブルの配置を通い利用者の関係性に合わせて毎日変更している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥にソファを設置し、少人数で過ごせる環境を確保しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が希望するものを自由に持ち込んでよい方針を取っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泊まりに必要な調度品を用意している。居住を目的としていないので、利用者は着替えのみ持参している。中には、お気に入りのラジカセを持参している利用者がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の備品が居室に置かれています。利用者が居心地良く過ごせるよう備品の置き場所の確保が期待されます。</li> </ul>
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーになっており、手すりを各所に設け自立した正確を遅れるように環境を整えています。		

# 目標達成計画

事業所名 ジャパンケア川崎新作小規模多機能

作成日 平成25年1月21日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	31	現状、看護職員が中心となり、健康チェック服薬管理、検 j n 工管理を行っているが、ご利用者の機能維持・向上を行うためのシステムの構築ができていない。	ご利用者の機能維持・向上を図るため、機能訓練を実施する。	看護職員により、各ご利用者の身体機能を把握し、どのような訓練が必要かを考え、計画的な機能訓練を実施する。	6ヶ月
2	48	現在、レク等で行った塗り絵などを廊下等に掲示したりし、ご利用者個々の状況にあったスケジュール提供を提供しているが、希望に沿ったレク等が提供できていない。	ご利用者個々の趣味ややりたいことを把握すると共に、ご利用者の過去を把握する。	ご利用者とスタッフが会話する時間を多くとり、会話の中から趣味や昔の仕事等を把握し、ここにあったレクを提供するためのプログラムを開発していく。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。